

国立情報学研究所オープンフォーラム2024

～地域ので切り開く、
研究データ管理のこれから～

June. 12, 2024



金沢大学における学術データポリシー制定・改訂 と北陸地区への展開活動

金沢大学

先端科学・社会共創推進機構

長井 圭治

学術メディア創成センター

高田 良宏・笠原 禎也



背景(コアファシリティ構築支援プログラム)

- ・ 学術データポリシー制定とデータ管理(GakuNIN RDM活用)
- ・ 北陸ファシリティ・技術人材ネットワークの構築と活動

計画(研究データ管理スタートアップ支援事業)

- ・ 「AI等の活用を推進する研究データエコシステム推進事業」における位置付け～データポリシー見直し・ガイドライン等の整備～

実施状況

- ・ データポリシー見直し・ガイドライン等の整備
- ・ 北陸地区への展開

今後の予定

- ・ 北陸研究データ基盤コンソーシアム

背景:「コアファシリティ構築支援プログラム」におけるデータ管理

3

金沢大学 研究基盤統括本部

施設・共用設備・ルール・人材・データを全学一元化



背景:「コアファシリティ構築支援プログラム」における地域ネットワーク

4

先端研究基盤共用促進事業（コアファシリティ構築支援プログラム）

中間評価結果

2023.1 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu28/houkoku/1418594_00001.htm

機関名	金沢大学
事業概要	大学改革に直結した戦略的・効率的な研究基盤整備の実現のため、既存の設備共同利用統括組織である設備共同利用推進室の機能を拡大・再編した <u>研究基盤統括本部</u> を新設し、研究基盤を担う学内施設・共用設備・人的資源の統括を図る。
評価（総合評価）	コメント
S	・ 学長をトップとした<u>全学体制</u>で取り組んでおり、<u>URA と事務局との連携</u>により、外部資金獲得や論文数向上への成果創出につなげているとともに、進捗、体制構築、政策との連携など、計画を大きく上回る成果を創出しており、今後大きな発展が期待できる。 ・ 研究基盤統括本部の組織体制や運営方法は他機関において手本となるものであり、<u>本取組をコアとして地方中核大学としての機能を強化</u>している。 ・ <u>北陸地域のネットワークを形成</u>し、機器の相互利用や技術者交流を積極的に推進しており、今後も一層の連携の拡大を期待したい。

背景：北陸ファシリティ・技術人材ネットワークの活動

5

北陸地域における設備・人材の共有と技能伝承

参画組織：富山大/福井大/北陸先端科学技術大学院大/金沢医科大/富山県立大/石川県立大/
福井県立大/石川県工業試験場/石川県警科捜研/製品評価技術基盤機構等 15機関

・設備共同利用のノウハウ共有

設備の共同利用促進

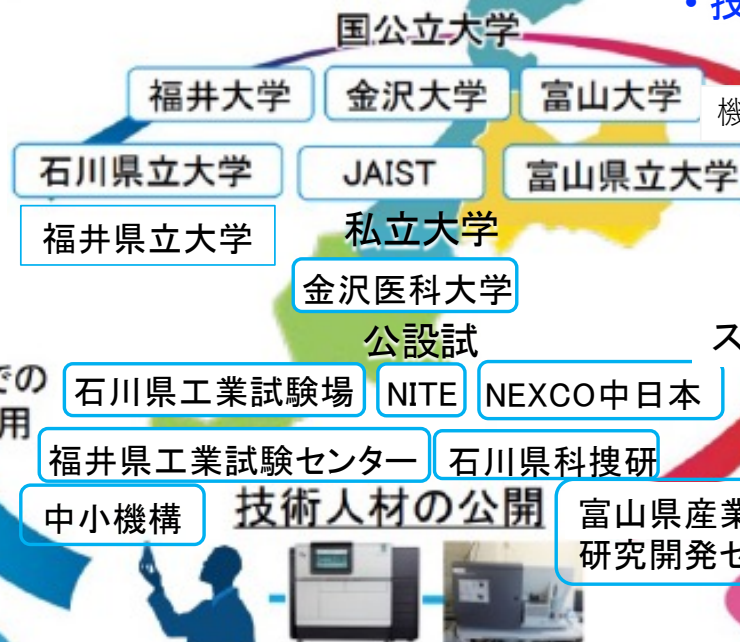


ネットワーク参画機関内での
共同利用設備の有効活用

外部利用拡大

・受託サービスを開始

融合研究促進



ネットワーク参画機関で働く技術人材と
そのスキルをデータベース化・公開

- ・北陸の装置(540設備)・
技術人材の見える化
- ・技術職員の共同講習会

技術の共有

機関・氏名・技術分野・スキル DB



ネットワーク内外機関と
スキルアップ・チームワーク研修



技術力向上



・ネットワーク間連携

技術交流



- ・ネットワークの共同利用設備を活用したリカレント教育
「データ取得・管理・活用を進める」技術人材育成プログラム⁵

ワークショップ 2023.8



基調講演

文部科学省 研究環境課

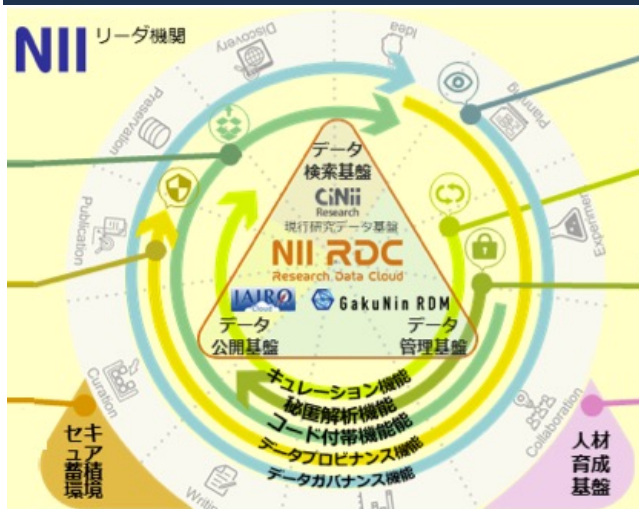
「研究設備・機器の共用推進に
向けたガイドラインの概要」

活動紹介(横連携)

各機関の特徴ある取組

位置付けと計画:「研究データエコシステム構築事業」

6



ルール・ガイドライン整備チーム



リーダ機関

- 研究データの活用に適した機械可読データの統一的な記述ルール設計
- 研究データの公開に必要な要項や作業フローの整備
- 研究データを適切に取扱うための指針のまとめ
- 学内整備のための事例形成

研究データ管理スタートアップ支援事業

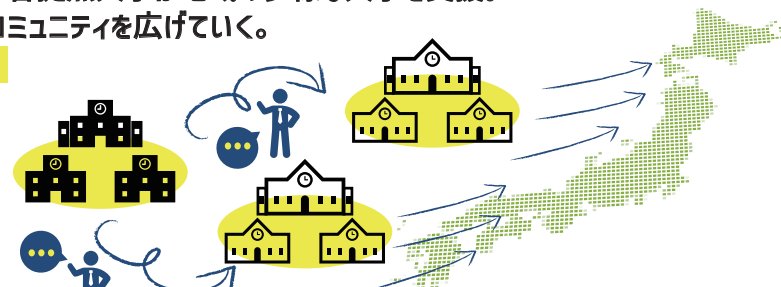
研究者の行動変容を促す「研究 DX」を推進するため、研究データポリシー策定、研究データマネジメント体制整備といった、研究データ管理のノウハウを中核機関群のもとで構築し、各地域において核となる拠点大学を中心に、各大学・研究機関等の組織に伝搬させていく取り組みです。

各地域における核となる拠点大学群

- 核となる拠点大学を全国に作り支援。各拠点大学が地域の多様な大学を支援。
- 潜在需要が想定される大学も含め、コミュニティを広げていく。

想定されるコミュニティ内での取り組み

- 課題抽出
 - データマネジメント体制の構築
 - データポリシーの構築
- スキル・ノウハウの蓄積
他大学の情報共有



2024年度

- 本事業は、ルール・ガイドライン整備チーム（リーダー：名古屋大学）が統括する
- 地域ごとに支援機関と複数の被支援機関による支援の仕組み（コンソーシアム体）を設ける
- 支援機関は、令和5年度は名古屋大学（東海地域）、金沢大学（北陸地域）とする

名古屋大学：

「研究データエコシステム東海コンソーシアム」を発足 < 正会員 8 機関、準会員 4 機関が加盟済み >
<https://icts.nagoya-u.ac.jp/ja/information/event/2023-07-21-consortium.html>

金沢大学：

学内に研究データエコシステム整備 WG を設置し、データポリシーの見直しとデータ利活用のためのガイドライン等の整備を実施

現行データポリシーとデータ管理環境整備

7

金沢大学学術データ管理基盤システム (ARCADE2) [TOP](#) [システム](#) [ドキュメント](#) [申請書](#) [お問い合わせ](#) [学内限定](#)

金沢大学 学術データ管理基盤システム

ARchive system for Cross-reference Across Distributed Environment (ARCADE) version

ドキュメント

システム利用マニュアル

金沢大学学術データマネジメントポリシー

国立情報学研究所
オープンサイエンス基盤研究センター
Research Center for Open Science and Data Platform

Google 提供

by  GakuN

[TOP](#) [RCOSについて](#) [研究開発](#) [コミュニティ](#) [関連情報](#)

[TOP](#) > [研究データ管理\(RDM\)説明会2022 in 金沢\(2023年2月開催\)](#)

研究データ管理(RDM)説明会2022 in 金沢(2023年2月開催)

大学や研究機関の現場で、研究データ管理への対応を模索している担当者が集まり、先行事例を共有し、議論する場を設けます。ご関心のあ
第1部では、「NII Research Data Cloud」上のシステムであるデータ管理基盤「GakuNin RDM」の最新状況をNIIよりご説明するとともに、いち
テムの運用に取り組んできた大学の事例を紹介します。第2部では、研究データガバナンスの構築を意識したNII研究データポリシーについてご
大学から、ポリシー策定や研究データ管理に向けた取り組みを発表いただき、課題についてディスカッションいたします。

金沢大学学術データ管理基盤システムとは？

近年、研究公正（Research Integrity）や研究推進（Open Science）の流れを受けて、研究データの適切な管理が義務付け
タ管理システムは、研究データだけではなく、教育に関する活動を通じて収集又は生成されたデータも含めた「学術デー

金沢大学学術データマネジメントポリシー

令和4年3月11日制定

（目的）

1. 金沢大学（以下「本学」という。）は、金沢大学憲章に基づき、「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」として、世界の平和と人類の持続的な発展に資するとの認識に立ち、真理の探究に関わる基礎研究から技術に直結する実践研究までの卓越した知の創造に努め、それらにより新たな学術分野を開拓し、技術移転や産業の創出等を図ることで積極的に社会に還元することを理念としている。

本学は、研究と教育に関する学術活動によって産み出された知的成果を蓄積し、適切に管理・保存し、それを社会に還元することで、上記の理念を具現化するとともに、本学の将来の学術活動を守るため、その指針として金沢大学学術データマネジメントの原則を定める。

（学術データの定義）

2. 本ポリシーが対象とする「学術データ」は、本学における研究と教育に関する活動を通じて収集又は生成されたデータをいう。

（学術データの管理等）

3. 学術データの管理、公開及び利活用の方法は、それを収集又は生成した者が、法令及び本学の規程その他これに準ずるものの範囲内並びに他の者の権利及び法的利益を害さない範囲内において、決定することができる。

（大学構成員の責務）

4. 本学において研究・教育活動を主体的に担う者（以下「大学構成員」という。）は、学術データを適切に管理・保存すること、すなわち学術データ管理は、優れた研究・教育を行う上で必要不可欠であると認

ARCADE2 <https://www.rdm.kanazawa-u.ac.jp>

研究データ管理スタートアップ支援事業

第1回 北陸地区学術データ基盤セミナー

～コアファシリティ連携から研究データエコシステム構築を目指して～

「AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築支援事業」の推進のため、その背景やNIIを中心とする本事業の概要と進捗を、北陸地区で共有するとともに、その実施のためのデータマネジメントポリシーやガイドライン、その他規則の整備と学認RDMの活用等に関する金沢大学の取り組みを紹介します。

「研究データ管理スタートアップ支援事業」の支援機関として、北陸地区において当該事業の推進を進めるべく、情報共有と研究データエコシステムの構築の推進を北陸地域で展開することを目的とします。

日時 令和6年2月20日（火）13時00分～16時50分

会場 金沢大学 ナノ生命科学研究所 4階大会議室
対面+オンライン開催

対象 北陸地区を中心に、図書館、研究推進、教育推進、産学連携、大学IR、情報基盤などの担当者（他の地域からの参加歓迎）

参加費

無 料

事前申込
必要

主催



金沢大学



NII 国立情報学研究所

趣旨説明 金沢大学 学術メディア創成センター長 笠原禎也

開会挨拶 金沢大学 理事（情報担当）・副学長 森本章治

基調講演 文部科学省 研究振興局 参事官情報担当付 学術基盤整備室長 藤沢 亘

AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業について 国立情報学研究所 中野恵一

招待講演 大学間の連携／コアファシリティについて 大阪大学 古谷浩志
ARIM事業／研究データ管理の状況について 北陸先端科学技術大学院大学 高村由起子

金沢大学の取組と構想 北陸ファシリティ・技術人材ネットワークの取組について 金沢大学 長井圭治
金沢大学における学術データ管理基盤システムについて 金沢大学 高田良宏
金沢大学における研究データポリシーの整備状況と北陸地区研究データコンソーシアム構想
金沢大学 笠原禎也

フリーディスカッション（現地参加者のみ）

参加者 オンサイト 46名
オンライン 175名



全国からの
ご参加ありがとうございました

「金沢大学 学術データマネジメントポリシー」

(令和4(2022)年3月11日制定)

「国立大学法人福井大学 研究データ管理・公開ポリシー」

(令和5(2023)年7月19日学長裁定、「解説」あり)

「北陸先端科学技術大学院大学 研究データ管理・公開ポリシー」

(令和5(2023)年12月4日学長裁定、「解説」あり)

(制定日順)

研究データ管理スタートアップ支援事業

第2回 北陸地区学術データ基盤セミナー

～北陸研究データ基盤コンソーシアムキックオフミーティング～

オープンサイエンスやオープンイノベーションが求められる中、データの取り扱いについて、ポリシーやルール作りが不可欠です。今回のセミナーでは、北陸地区の大学間で、実際のポリシー策定に関する情報を共有し、またそれを実際に運用する場合の課題等についても情報交換することを目的とします。

「研究データ管理スタートアップ支援事業」の支援機関として、北陸地区において当該事業の推進を進めるべく、「北陸研究データ基盤コンソーシアム」を立ち上げ、そのキックオフミーティングといたします。

日時 令和6年7月23日（火）13時00分～16時00分

会場 金沢大学 学術メディア創成センタープレゼンテーション室 対面+オンライン開催

対象 北陸地区を中心に、図書館、研究推進、教育推進、産学連携、大学IR、情報基盤などの担当者

主催  金沢大学

後援  国立情報学研究所（予定）

趣旨説明 金沢大学 学術メディア創成センター長 笠原禎也

各大学の取組について 福井大学・北陸先端科学技術大学院大学・金沢大学

招待講演 研究データ公開を進めるための実効的ポリシー策定 iCRAFT事務所 弁護士 内田誠

■以下 オンライン配信無し（現地参加者のみ）

金沢大学改訂版学術データポリシーの実施細則案とガイドライン案について

フリーディスカッション

参加申込方法

以下の事前登録フォームからお申込みください

<https://ws.formzu.net/dist/S602190513/>



参加費
無料
事前申込
必要